

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	06	0408	(仮称)山の駅・昭和の学校整備事業

事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度繰返	<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定	[平成 25 年度 ~ 平成 26 年度]
------	--------------------------------	------------------------------------------	-----------------------

《事業目的》
山の駅・昭和の学校利用者の利便性の向上

《事業開始の背景》
廃校となった旧前田小学校について地域と協議の結果、「山の駅・昭和の学校花巻校」として活用することとなり、NPO、地域代表、市の3者で協定を締結した。

《事業概要》
○山の駅・昭和の学校駐車場整備（旧前田小学校校庭の一部を舗装）

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(計画)
① 昭和の学校開館時(H26. 3. 22~3. 31)来場者	人	目標		500	
		実績		0	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
地域づくり	総合政策部	地域づくり課	似内一弘	454

事業費	25 年度	当初(現計)	補正	25 年度	年度
	19,004				
財源内訳	国県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	19,004			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

旧前田小学校の活用計画

普通財産(NPOに貸付)

普通財産⇒行政財産(駐車場)

駐車場(H25):市で整備
産直施設等:地域で検討

○駐車場舗装工事費 19,004

(仮称)山の駅・昭和の学校整備事業(総括表)

平成25年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	02	01	06	0408	(仮称)山の駅・昭和の学校整備事業

総合計画	政策5	都市内分権構築で市民参画・協働のまちづくり	施策5-1	小さな市役所構想と協働の推進
目的	山の駅・昭和の学校利用者の利便性の向上			
対象	地域住民及び旅行者			
意図	昭和の学校花巻校を核施設とした山の駅利用者の利便性を向上し、地域の活性化、市の交流人口の増加を図る。			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○山の駅・昭和の学校駐車場整備（旧前田小学校校庭の一部を舗装）

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催	<input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会	<input checked="" type="checkbox"/> 事業協力・協定
	<input type="checkbox"/> 後援・協賛	<input type="checkbox"/> 補助・助成	<input type="checkbox"/> 委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	年度(計画)
① 駐車場整備面積	㎡	計画		3,270	/
		実績		3,270	
②		計画			/
		実績			
③		計画			/
		実績			
成果指標（上記「意図」に対応）	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	年度(計画)
① 昭和の学校開館時(H26.3.22~3.31)来場者	人	目標		500	/
		実績		0	
②		目標			/
		実績			
③		目標			/
		実績			

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

平成26年3月の開設を目指し駐車場整備を行ったが、用途変更に伴う改修工事が必要となり、オープンが平成26年秋以降にずれ込んだため。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

イベント開催時の利用や、大型バスの駐車も想定した大規模な駐車場の整備が求められている。

目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 公共関与の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	旧前田小学校の活用については、市が地域住民と連携して取り組まなければならない課題であり、公共関与は妥当である。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	「昭和の学校」を開設するのみならず、湯口地区住民が主体的に旧前田小学校を活用して、地域がにぎわうような事業を行っていく必要がある。
効率性	<input type="checkbox"/> 事業費・人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	事業費は適正な設計に基づくものであり、削減余地はない。
公平性	<input type="checkbox"/> 受益と負担の適正化余地 <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	旧前田小学校を「昭和の学校」として活用するため市が主体的に費用負担を行い事業を行ってきたが、今後は湯口地区住民が地域課題としてとらえ、「昭和の学校」とともにある程度の費用負担を行い、事業をする必要がある。

《総合評価》…上記評価結果の総括

旧前田小学校の活用については、地域から、市において地域が活性化するような施設を整備し、運用するよう要望があったが、「昭和の学校」として活用し、地域、市が「昭和の学校」と連携していくこととし、それぞれの役割において事業を実施していくこととした。